

慰霊の日を前に平和講演会開催！

慰霊の日、6月23日(火)は沖縄にとって忘れることの出来ない日で、。沖縄戦が組織的に終わったとされる日です。この機会に戦争や平和について考える場として今年は根路銘国文先生に講演をしていただきました。

根路銘先生は第12代の本部中学校校長を歴任し、その後本部町の教育長をされるなど



本部中学校にとってもとてもゆかりの深い人です。50分と短い時間でしたが戦争体験者から直接お話を伺う貴重な機会となりました。生徒も平和に対する決意を改めて強くする機会となりました。今後は3年生が6月19日(金)、1年生が6月22日(月)に計画しています。



時間の関係で短い時間でしたが質問も多く出されました。戦争中一番恐ろしかったこと「戦争で失ったもの」などの質問に根路銘先生は、艦砲射撃が特に恐ろしかった。戦争を起ささないために心に平和のとりでを作る事などをお話されました。

根路銘先生には、実体験をお話いただくとともに、実弾の音を再現したり、拳銃の弾、手榴弾、艦砲射撃の爆弾、子どもを泣き止ますために使ったわしミルク等、実物を多く見せていただきました。講演が終わった後も2年生のほとんどは会場にのこり、手に取ったり質問をしたりしていました。根路銘先生本当に貴重な講演ありがとうございました。



講演会を聴いての感想から

今日学校では本部町内にお住まいの根路銘先生をお呼びして平和講演会がありました。私は、講演を聴いて戦争は改めて恐ろしく、無駄なことだと思いました。この争いがなく、平和に恵まれた生活が出来ている「今」は決して永遠や当たり前ではなく、「奇跡」なのだということを改めて強く感じました。今回、根路銘先生の講話を実体験や実物を通して聴いて当時の方の心情や当時の環境を詳しく知る事ができました。人の命は永遠ではなく、うばおうと思えばうばえるほどデリケートではかなく尊いものです。だからこそお互い助け合い支え合いままとまって信頼しあって生活していくことが大切だと私は思います。今後同じようなあやまちで、たくさんの尊い命をうばわれるようなことが起きないように一人の人間として周りを支え、時には支えられこの平和がいつまでも続くように今日聴いた歴史を胸にしまっておきて生きていきたいと思っています。

6月23日を前に本部中学校で平和学習会が行われました。今年は地域の方で直接戦争を体験したことのある根路銘国文先生にお話しをしていただきました。お話しを聞いて、改めて戦争の怖さについて考えることができました。一日中鳴り響く大きな音、人々のうめき声、散らばる破片。当時の人たちは「生きる」ことに精一杯で人間の「悪」の部分がたくさん増えてしまったのだと思います。

この話を聞いて今生きている私達がどんなに幸せなのか実感することができました。先生は何度も「怖かった」と口にされていて、本当に戦争は怖かったのだろうと感じました。沖縄戦を直接体験した人は年々少なくなってきていて、体験者の話を聞く事ができるのも後わずかの時間だと思っています。慰霊の日を通して私達の世代が次の世代へ受け継がなければならないと思っています。

今日学校で戦争と平和について考える講演会がありました。講演を聴いて家族全員生き残った根路銘さんの家族はすごいと思いました。運も確かにあるのだと思うけど、最後まで頑張ってお生き残ろうとしたから生き残ることが出来たのだと思います。壕の中では泣き止む赤ちゃんに向けて「赤ちゃんを殺せ」と言われるほど追い詰められたと聞き心が苦しくなりました。平和は一人一人が考えないと守られないものだと思います。太平洋戦争は日本が始めに始めたと聞きましたが、戦後長い間日本が、平和な期間を長く続けているのはとてもよいことだと思います。いずれは平和が普通になるのが一番です。今後も修学旅行などでまた、戦争について考える機会があります。それまでに根路銘さんから問いかけのあった「平和のとりで」について考えを深めておきたいと思っています。